

2021年05月27日

会員の皆様、

日本でも新型コロナワクチン接種の動きが進められていますが、ソーシャルディスタンスやマスクの着用、手洗いなどの感染対策は継続していく必要があります。

今月号では、世界的に流行した主な感染症について弁護士の二宮正人氏にご寄稿いただきました。過去の事例では、ワクチン接種や多くの人々の努力により徐々に感染拡大が収まりましたが、新型コロナウイルスも同様に収束に向かうことを願います。

コロナ禍を受け、ブラジル中央銀行は様々な経済対策を打ち出しています。今号ではこうしたブラジル中央銀行の取り組みや、ブラジル政府のコロナ対策関連の支出に関する記事も掲載しました。ブラジルでも徐々に導入が進んでいる5Gについてブラジル全国工業連盟の機関誌がまとめた記事についても取り上げましたのでご覧ください。

ブラジルの国民的漫画家マウリシオ・デ・ソウザ氏をゲストに招きライブ配信を開催いたしますので、ぜひ皆様ご参加ください。ソウザ氏には、世界的にも有名なマウリシオ・デ・ソウザ・プロダクションを創立するに至った経緯など、経営者としての来歴について語っていただきます。

それではよろしくお願いします。

CCBJ会頭
行徳セルソ

(寄稿)

日本の新型コロナウイルス感染症対策に関する法体系

二宮正人

サンパウロ大学法学部法学部国際法比較法学科博士教授、同大学大学院（日本語日本文学専攻）教授、公証翻訳人兼宣誓通訳

日本は地震や台風、津波、火山の噴火など自然災害の多い国として知られるが、現在はCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）が深刻な問題となっている。そこで日本の感染症流行の歴史を振り返ってみたい。

古くは神話時代にも言及され、西暦720年に完成した日本書紀にも記述がある天然痘について見てみると、735年と737年に大流行したという記録が残されている。752年に完成した奈良の大仏は、疫病退散の祈願のために建立されたと言われている。当時の日本の人口の25%から30%にあたる100万人から150万人が感染したと見られている。

天然痘はその後も度々流行を繰り返し、大勢の人々の命を奪った。天然痘による死者数は、イギリスのエドワード・ジェンナーが1796年に発見した種痘の普及により減少に向かった。日本では、捕虜として連行されたロシアで種痘法の知識を身に付けた後、1810年に日本に返還された中川五郎治によって伝えられた。しかし日本では、牛由来のワクチンのため接種すると牛になるという偏見のために種痘への反発が強かった。

日本で実際に種痘が行われるようになったのは1848年以降のことで、その後100年間で広く普及し、1955年に日本政府は国内の天然痘の根絶を宣言した。1980年には世界保健機関（WHO）が天然痘の根絶を宣言した。

その他の感染症としては、ペニシリンが登場するまで不治の病として恐れられた肺結核がある。1934年の肺結核患者数は当時の日本の人口の2%肺結核に相当する130万人で、死亡者は約13万人だった。第二次世界大戦後には、進駐軍によってもたらされた抗生物質の普及で結核患者は減少した。またBCG接種も結核の予防に貢献した。

しかし近年になって、以前ほどではないとはいえ結核は再興感染症として問題となっている。2019年の日本の結核罹患率（人口10万人当たりの結核患者数）は11.5人、感染者数は1万4460人、死者数は2088人で、アジア諸国の中では低い数値

だが、先進諸国の中では高い水準にある。

※国際交流基金のサイトに掲載された文章の抄訳。全文はこちら：<https://fjisp.org.br/estudos-japoneses/artigo/serie-especial-de-ensaios-pandemias-no-japao-estrutura-juridica-de-combate-a-covid-19/>

(経済)

ブラジル中銀の新型コロナ対策

新型コロナウイルス感染症拡大による経済への影響を軽減することを目的に、ブラジル中央銀行は金融システムの安定性を損なうことなく市場機能を正常に保つための様々な対策を講じています。コロナ禍の影響を受けた個人や企業に対し各金融機関が行う融資のための資金が不足しないよう、ブラジル中央銀行は金融システムの流動性を維持するための対策を発表しました。

詳細はこちら：https://www.bcb.gov.br/acessoinformacao/medidasdecombate_covid19

出所：ブラジル中央銀行

コロナ対策が国の財政におよぼす影響

ブラジルのヴァウデリー・ロドリゲス財務特別局長官は、政府の歳出上限を設ける規定は支出削減のために必要不可欠だと語りました。長官によると、コロナ対策のための特別支出により、2020年末のブラジル政府の支出の対GDP比で26.1%に達していますが、2021年は19.7%まで減ると見込まれています。また2020年に88.8%となった政府債務残高の対GDP比は、2021年には87.2%になると予想され

ています。

詳細はこちら：<https://www.gov.br/economia/pt-br/assuntos/noticias/2021/maio/im-pacto-fiscal-das-medidas-de-enfrentamento-a-covid-19-foi-de-r-549-8-bilhoes-em-2020>

出所：経済省

製造現場での 5 G 利用

ブラジル全国工業連盟 (CNI) の機関誌に、 5 G (第5世代移動通信システム) 導入が製造現場にもたらす影響に関する記事が掲載されました。記事では 5 G 導入で可能となるロボットや原材料の輸送工程などのネットワーク構築が例として挙げられています。

詳細はこちら：<http://www.portaldaindustria.com.br/publicacoes/2021/4/revista-industria-brasileira/#revista-industria-brasileira-ano-6-no-54-abril2021>

出所: CNI

(CCBJ)

ライブ配信イベント「マウリシオ・デ・ソウザのビジネスヒストリー」についてのご案内

在日ブラジル商工会議所では、下記の通りブラジルの国民的漫画家で実業家でもあるマウリシオ・デ・ソウザ氏のライブ配信イベントを開催する運びとなりましたので、ご案内申し上げます。

人気漫画「モニカ & フレンズ (Turma da Mônica) 」の作者であるマウリシオ・デ・ソウザ氏に、経営者としてマウリシオ・デ・ソウザ・プロダクション (Mauri-

cio de Sousa Produções) の起業から、経営危機を乗り越え成功を収めるに至ったこれまでの道のりについてオンラインで語っていただきます。

同プロダクションは、ブラジル最大のエンターテインメント企業の1つであり、「モニカ&フレンズ」などの作品をモチーフにしたブランドを展開しています。これまでに出版した書籍は400冊以上、雑誌の売上部数は10億部を上回っており、出版事業を通じてブラジル人の識字教育にも貢献しています。

皆様のご参加をお待ちしております！

開催日時：6月11日（金）午前9:00（日本時間）

使用メディア：Zoom（参加者に招待URLをお送りします）

言語：ポルトガル語、日本語への同時通訳あり

参加無料

参加ご希望の方は、2021年6月4日（金）までにこちらのリンクよりお申し込みください：

<https://forms.gle/Gz27Pi45jijH4rrT9>

プログラム

9:00 オープニング

9:05 CCBJのセルソ行徳会頭によるスピーチ

9:10 駐日ブラジル大使館代表スピーチ

9:15 マウリシオ・デ・ソウザ氏による講演

9:45 質疑応答

10:15 スポンサー企業によるプレゼンテーション

10:30 終了